

2021年6月28日
株式会社三菱UFJ銀行

ダイナミックマップ基盤株式会社で「ソーシャルローン」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一、以下 当行）はダイナミックマップ基盤株式会社（代表取締役社長 稲畑 廣行、以下「同社」）との間で、「ソーシャルローン」によるシンジケーション方式の実行可能期間付タームローン契約（以下「本ローン」）を6月28日に締結いたしました。

同社は、自動車関連およびスマートシティ等、様々な用途に向けた高精度3次元地図データ（HDマップ）の生成・維持・提供することを目的に2016年6月13日に設立されました¹。また2019年には、北米の道路地図データ整備に大きな実績をもつ米国Ushr社を買収しました。HDマップのカバレッジは、日本で高速道路・自動車専用道路約3.2万km（上下線計）、米国で約20万マイル（32万km程度）以上を網羅し、今後更なるカバレッジの拡大を図ります。

同社は、中長期ビジョンとしてSociety 5.0²に貢献する3次元位置情報基盤の実現を目指しており、自動走行や先進運転支援システムに加え、インフラ維持管理システムや防災・減災システム等にも活用できる、高精度3次元データの整備を進めています。本ローンにて調達された資金も同様に、Society 5.0に資するHDマップの整備に充当され、社会課題解決に貢献する予定です。

なお、本ローンについては、株式会社日本格付研究所（JCR）より、ローン・マーケット・アソシエーション等³が2021年4月に策定した、ソーシャルローン原則に適合したソーシャルファイナンスであるとの第三者評価を取得しております。

本ローンの概要

契約締結日	2021年6月28日
アレンジャー/エージェント	株式会社三菱UFJ銀行
ジョイントアレンジャー	株式会社商工組合中央金庫
組成金額	40億円
資金使途	高精度3次元地図データの国内カバレッジ拡大
貸出人（五十音順）	株式会社山陰合同銀行、株式会社商工組合中央金庫、株式会社名古屋銀行、株式会社八十二銀行、株式会社三菱UFJ銀行

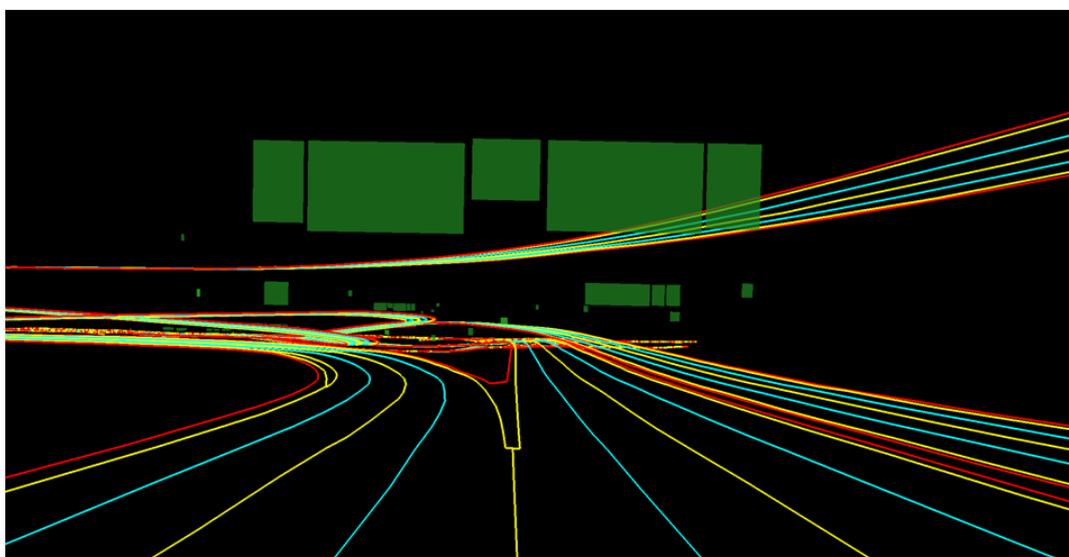
¹ 2016年6月13日にダイナミックマップ基盤企画株式会社として設立、2017年6月にダイナミックマップ基盤株式会社に社名変更し、事業会社化。

² サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。

³ 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に60ヶ国以上約630機関が加盟するLoan Market AssociationとAsia Pacific Loan Market Association、Loan Syndications and Trading Associationの三社を指す。

<プロジェクト詳細>

適格プロジェクト	ソーシャルローン原則上の分類・対象
高精度3次元地図データの国内カバレッジ拡大	<p>プロジェクト分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 手ごろな価格の基本的インフラ設備（輸送） ◇ 社会経済的向上とエンパワーメント <p>対象となる人々</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 認知・判断・操作能力に衰えが見られる高齢者、または身体に障害を持つ人々 ◇ 河川や海岸の近くに居住する人々 ◇ 除雪により裨益する人々



高精度3次元地図データ（HDマップ）イメージ

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上